

新 KAN 創刊号

こんにちは。
“新KAN”を……です。



ねぶた&●●●訓。

●●●君に今年のねぶたについて、インタビューしてみました。

- 1, やって良かったこと
- 2, 苦労いろいろ
- 3, 何か一言
- 4, 秘話、など
- 5, スケジュール表

1, やって良かったこと

やっていく中での楽しさ、終わったときの寂しさを人一倍感じられた。
やって損はない、部活に出れなくて怒られたけど。
一番楽しかったのはやっぱり目玉親父の上へのぼったとき。

2, 苦労いろいろ

計画性が無くて大変だった。始めは遅くてもいいかと思ってゆっくりゆっくりやっていたら、最後は夜まで残ってしまった。
それと人が来なかった。ここぞ、と言うときに人がいない！

3, 何か一言

ねぶたをやるとその間だけかも知れないけどいろんな人と仲良くできて楽しいからやってみてください。

4, 秘話、など

Q, どうしてねぶたはあんなに巨大なの？

A, みんなで持つため。みんなで作るため

Q, 目玉親父がラーメンにつかることとなった発端

A, ある中三の机に描いてあったから

それから着想を得て動きのあるラーメンにした

↑

箸で持っためん、ゆれる汁

5, スケジュール

・夏休み前・	・夏休み中・	・夏休み後・	・当日！・
1, 何を作るか？ 2, 図 3, 模型 (粘土&針金)	1, 木材の注文	1, テント張り 2, 土台作り 3, バンセンと みがき丸棒 4, 電飾取り付け 5, 紙張り	かつぐ！



中 1

初めての学園祭で 1 組は絵本喫茶。

2 組はおでん屋と豚の角煮をやった。

初めての学園祭は、準備など予想以上に大変だったけど楽しかった。

1 組の、絵本喫茶は、ウェイターの自作のトランプTシャツが印象的だった。

2 組の、おでんと豚の角煮は、店員がおでんくんを使っていてユニークだった。

どちらのクラスも初めてだけど、がんばって売り込みをしていた。



※ 写真は、2 組のおでんと豚の角煮の仕込みをしているところ

中 2

● 1 組はパスタとピザを作りました。

テーマは「本格イタリアン」でした。

去年も一組はピザをやったけど去年より美味しく本格的に仕上がりました。パスタは行列が出来るほどの美味しさでした

● 2 組はうどんとしらたまを作りました。

テーマは「和風」でした。

竹で皿を作って、内装も畳を使ったり壁に竹を貼り付けたり和風づくしでした。うどんは美味しく仕上がりました。

● 3 組はカレーを作りました。

テーマは「本格インドカレー」でした。

インドカレーは大変評判で午前中で完売したそうです。とても美味しくこくのある味でした。

中 3

1組は「ラジオ放送と浅漬け屋」、2組は「男女入れかえ+ラーメン屋」、3組は「BAR-15の夜ー」でした。今回はその中でも初めの企画(「24時間フルマラソン」)変更後、見事に放送局を開設した1組の人(T君とM君)に取材しました。(回答ありがとうございます)

① ラジオ局を開設しようと思ったのはなぜ?

楽しそうだったから。(T君)

② ラジオ局の設備や規模は?

設備は専門の会社から機材を借りました。ラジカセは10台くらい。ラジオの放送範囲は自森の中学棟いったい、です。(M君)

③ ラジオ局と漬物の組み合わせはなぜ?

なぜでしょう…。とりあえず24時間マラソンが消えて、すぐにクラスで考えたら出てきました。それが漬物屋です。(M君)

深い意味はないな。浅漬けも楽しそうだった。(T君)

④ ラジオ局をやってみての感想は?

楽しかったです。聞いてくれるかどうかという不安はすぐに消えてしゃべるのが楽しかったです。(M君)

⑤ 今後ラジオ局をやってみようという人への助言を。

意外とかんたんです。やってみればもう1度やりたいという気持ちになるかも?(M君)



グレートジャーニー



関野吉晴さんは、人類拡散の道、およそ五万キロを逆からたどってき、グレートジャーニーを成功させた有名な冒険家です。それも化石燃料を使わずにいったそうです。

関野さんは、「自然に近い人、自然の一部として生きている人」を見たいと語っていました。自然だけでは飽きてしまう、そうではなくてそこに根付いて生きている人の生活、考え方に接したいそうです。

今回はグレートジャーニーの顛末と、特にシベリアの二百メートル四方誰も住んでいない、たとえて言うなら誰もいない北海道にぽつんと暮らしている家族を取り上げていました。・・・素晴らしく美しい白銀の世界で、獲物をとって暮らしているなんていいなあー、と僕は思いました。その代わり、一週間に一回しか電気器具を使えませんが。(一週間に一回だけ発電機を動かすそうです)

その家族は皮を売って暮らしているために町で後ろ指を差されていて、関野さんも始めはそんな気持ちだったそうです。しかし実際にはその家族の人たち、とくに罫をかけるお父さん、ハイモ氏はちゃんとそういうことを考えていて、「大地の植物がないと動物は生きられない。その植物を食べる野生動物を食べることはすなわち大地を食べることだ」と語り、必要最小限の獲物しかとらないそうです。

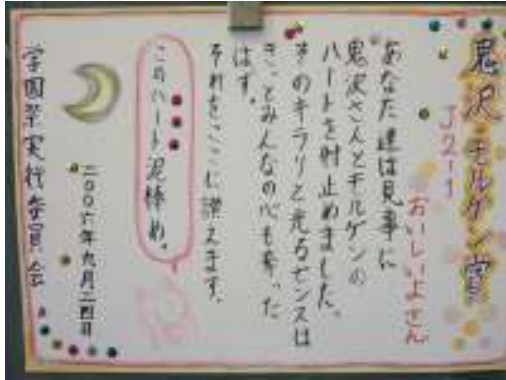
そして関野さんは「都会で自然破壊をしながら狩猟に反対する人よりハイモ氏のほうがより自然のことを考えている」と思ったと言っていました。

感想

本当に大変そうで、けど楽しそうでした。

関野さんは“特別な許可をもらってンゴロンゴロ国立公園を自転車で走れたときは、動物の中を走っていくのがとても楽しかった、もう少し走りたかった”と語っていましたが、本当に楽しそうでした。ぼくもあんな経験をしてみたい、けど多分出来ない、許可が出ないだろうから。

モルゲン鬼沢賞



このモルゲン鬼沢賞を受賞したのは
J2-1の皆さんです！

受賞のとき、事情の説明が無かったので、モルゲンに聞いてみました。

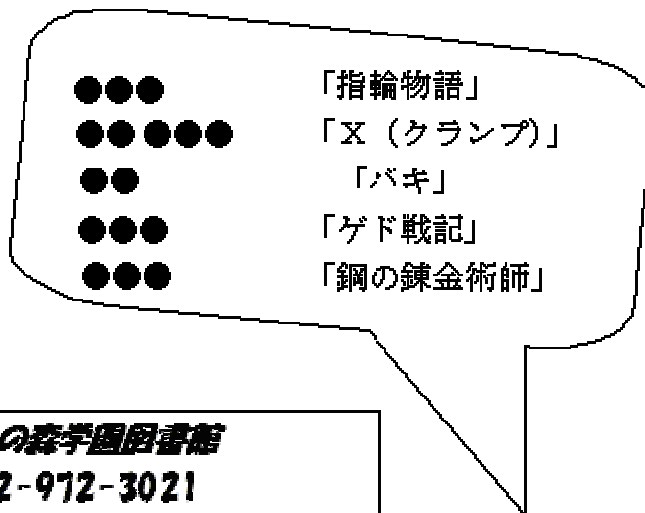
このクラスは食材を半年も前から育てていたり、食の安全や手作りにこだわり、企画への熱い思いが伝わって

いたので今回の選考になりました。

過去に例のないほどすばらしい企画と一致団結した内容でその熱意がこもっていた食品はとてもおいしく評判でした。

賞品の塩瀬のまんじゅうはモルゲンの祖先が約 400 年前の室町時代に朝鮮からやってきた帰化人で、日本最初のおまんじゅう屋を作った人だそうです。

KAN編集発行メンバーから一言 今気に入っている本



発行 自由の森学園図書館
TEL 042-972-3021
Eメール jib0@jiyunomori.ac.jp